

前回専門委員会での各委員からの意見等に対する補足説明

前回委員会における指摘・意見等	対応
<p>① 城山ダムにおけるクロロフィル a と N/P 比の関係について（前回資料 3-1 別紙 5） クロロフィル a と T-P の関係を見て植物プランクトン影響と結論付けるべきではないのではないか。（井上委員）</p>	<p>別紙 1 参照</p>
<p>② 水質汚濁に係る環境基準水域類型指定の考え方及び見直し方針（案）（前回資料 3-2） 都道府県の判断基準として、湖沼の見直し方針案についても作成すべきではないか。（井上委員）</p>	<p>資料 3-2 参照</p>
<p>③ 深山ダム貯水池（前回資料 4-4） 先行降雨の影響を受けた値を除外した N/P 比の状況のグラフを記載すべきではないか。（井上委員）</p>	<p>別紙 2 参照</p>

1. 城山ダムにおけるクロロフィル a と N/P 比の関係について（前回 資料 3-1 別紙 5）

城山ダムにおいて平成 17 年 8 月に高濃度が検出された要因を把握するため、平成 5 年度から平成 19 年度までのクロロフィル a と T-P の関係を整理し、植物プランクトンの増殖の可能性について検討した（図 1）。

平成 17 年 8 月の水質は、クロロフィル a が 70 (μg/L) と高い値を示しており、T-P 濃度は 0.25 (mg/L) と高い値を示している。

なお、別紙 2 図 18（下図は再掲）からすると、平成 7 年以降城山ダムの三井大橋付近ではアオコは見られていない。

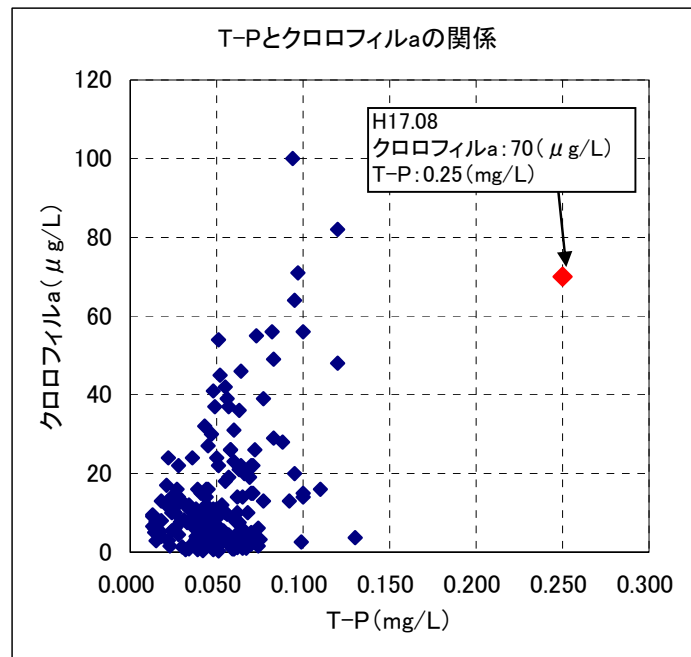
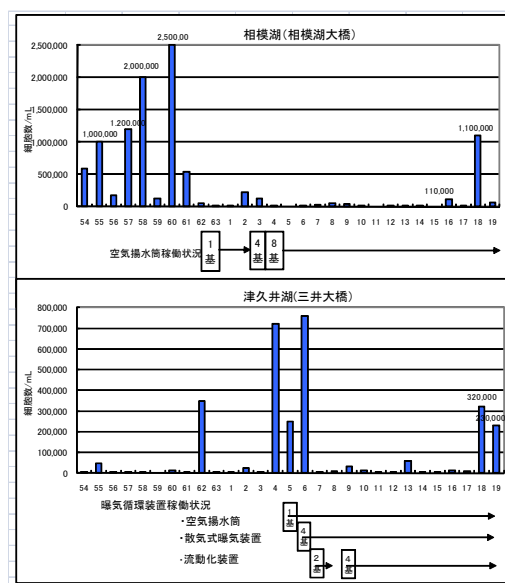


図 1 クロロフィル a と T-P の関係について



出典：神奈川県提供資料

図 2 相模湖・津久井湖（三井大橋）のアオコ最大細胞数経年変化（資料 2 再掲）

2. 深山ダム貯水池の、先行降雨の影響を受けた値を除外した N/P 比の状況のグラフについて (前回資料 4-4)

・・・平成 14 年度は 1 回の測定値が降雨影響によるもので、先行降雨の影響を受けた値として当該年度の T-P データを除外することとする（先行降雨の影響を受けた値の日以外の T-P を平均しても 0.02mg/l 以下となる）。平成 14 年度の T-P データを除くと、いずれの年度も T-P 濃度が 0.02mg/l 以下となる。

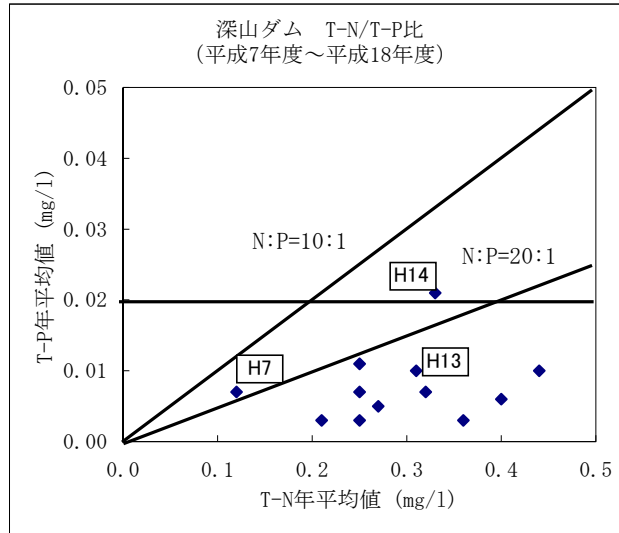


図 4.6 深山ダム N/P 比の状況

(データ除外後の赤枠部分を追記。)

なお、上記検体値（平成 13 年、平成 14 年）を除外した場合の T-N/T-P 比を図に示す。この図より、T-N は適用除外となる。

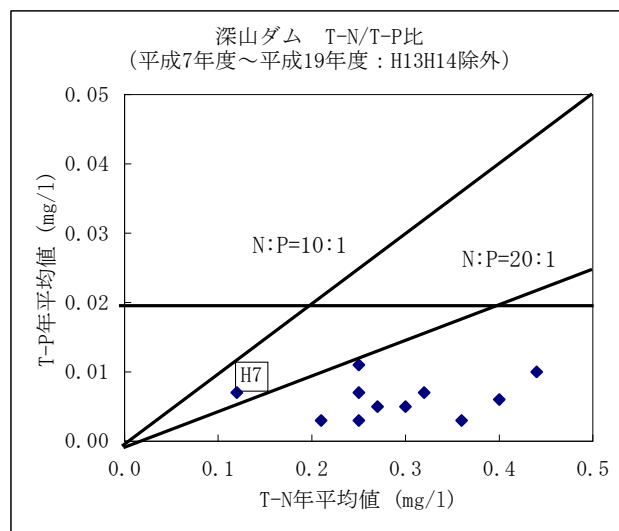


図 4.8 深山ダム N/P 比の状況（H13, H14 高濃度値除外）